

1892 | 大林組創業

1918 | 株式会社大林組設立

1956 | 糠平ダム

1970 | 万国博アメリカ館

1994 | 関西国際空港

2012 | 東京スカイツリー®

発刊のご挨拶



代表取締役会長
大林剛郎



代表取締役社長
白石 達

当社は2011年、創業120年を迎え、社史「120年史」を発刊しました。

発刊にあたり、お得意先をはじめ関係各位の温かいご支援ご愛顧と、先人たちの熱意と努力に、深い感謝と敬意を表する次第であります。

創業120年を迎えた昨年、当社は新たに「大林組基本理念」を策定しました。基本理念は、「私たちのありたい姿」と「大林組が考えるCSR」で構成し、それぞれ次のとおりとしました。

私たちのありたい姿 「地球に優しい」リーディングカンパニー

- 1 優れた技術による誠実なもののづくりを通じて、空間に新たな価値を創造します。
- 2 地球環境に配慮し、良き企業市民として社会の課題解決に取り組みます。
- 3 事業に関わるすべての人々を大切にします。

これらによって、大林組は、持続可能な社会の実現に貢献します。

大林組が考えるCSR

大林組は、事業活動を通じて、皆様に笑顔を届けること、そして社会の一員として、ステークホルダーの期待や要請に応えていくことが、社会的責任を果たすこととなると考えています。

基本理念は、全従業員が共有すべき会社の「幹」となるものであり、事業活動を営むにあたっての姿勢と価値観を示しています。

一方、基本理念を実現する原動力は、「誠実なものの造りの姿勢」「技術力」「人を大切にする」という先人から継承してきたDNAです。しかしながら、現代は、受け継いできたDNAだけで乗り切れるほど容易なものではありません。日本の超高齢化、歴史的な円高、財政不安、東日本大震災を機に表面化したエネルギー問題、欧米の債務問題などの事業環境の劇的な変化に対応し、時代とともに変化する「大林組の存在意義、社会から求められる使命」について自問自答を繰り返し、自己変革を続けなければなりません。

さて、本年新たに発表した「中期経営計画'12」では、当社グループの事業領域を既存のものに拘ることなく、参画可能な事業領域を広い視野で求め、「収益基盤の多様化」に主眼を置きました。当社は、今、この歴史的な転換点で、次代に向けて新たなスタートを切ります。

大林組は、建設とその周辺事業を通じて、広く社会に安全・安心を提供し、持続可能な社会の実現に貢献し、社会とともに持続的に発展し続ける企業をめざしています。

本書をご覧いただき、より一層、大林組を理解していただきたく、よろしくお願い申し上げます。

2012年11月

OBUYASHI CHRONICLE

1892-2011

●——収録コンテンツ

- ▶ 発刊のご挨拶
- ▶ 大林組のEGAO

【経営史】

- ▶ 第1章 1991-1995 激動の創業第2世紀の始まり
- ▶ 第2章 1996-2000 20世紀の終わり
- ▶ 第3章 2001-2006 新世紀の幕開け
- ▶ 第4章 2007-2011 次代に向けて
- ▶ テーマ別年譜 技術・環境・ICT・災害復旧

【工事実績】

- ▶ 約1,000件の
国内外の工事を紹介 地域／竣工年／用途による絞り込みが可能

【技術】

- ▶ 大林組技術研究所 技術の研究開発の拠点である技術研究所を紹介
- ▶ 技術紹介 最先端の技術約180件を紹介
- ▶ 技術スペシャル 東京スカイツリー®を築いた技術
- ▶ 技術スペシャル 大井地区トンネルとURUP工法

【資料編】

- ▶ 定款、財務諸表などの基本データ集

【百年史再録】

- ▶ 1993年刊行の「大林組百年史」を電子化して収録

起動方法

本DVD-ROMはDVDドライブのあるPC専用ディスクです。DVDドライブにセットすると、自動的にブラウザが起動し、「OBUYASHI CHRONICLE 1892-2011」のトップ画面が表示されます。

自動的に起動しない場合



「Index」ファイルを
ダブルクリック

動作確認済み環境

- ▶ OS : Windows® XP Windows® 7
- ▶ CPU : Intel® Celeron 600MHz
- ▶ メモリ : 256MB
- ▶ DVD-ROM ドライブ : 24 倍速以上
- ▶ ブラウザ : Microsoft Internet Explorer 8
- ▶ モニタの解像度 : 1024 × 768 ピクセル

PCの環境によって起動時にブラウザ環境の注意画面が出ることがあります。

本ディスクをPCのDVDドライブにセットしても、自動的に「OBUYASHI CHRONICLE 1892-2011」が起動しない場合は、ディスク内の「Index」ファイル(左図)をダブルクリックして下さい。ブラウザが起動し、「OBUYASHI CHRONICLE 1892-2011」のトップ画面が表示されます。

トップ画面とメインカテゴリ



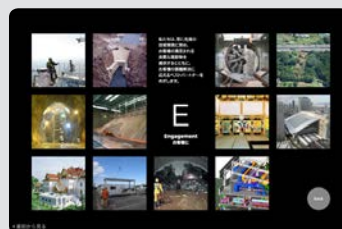
【経営史】

1991年度から2011年度までの当社の歩みを4章に分けて俯瞰しました。



【工事実績】*1

1991年度から2011年度までの工事実績から約1,000件を紹介します。



【大林組のEGAO】*2

当社のCSRを「EGAO」のキーワードでまとめたビジュアルコンテンツです。



キーワード検索ができます。検索結果はカテゴリごとに表示されます。



【技術】

大林組技術研究所の紹介に加え、約180の最先端技術を紹介。技術スペシャルとして、東京スカイツリー®で用いられた技術、URUP(ユラップ)工法も収録しています。



【資料編】

定款、財務諸表などの基本データ集です。



【百年史再録】

1993年刊行の『大林組百年史』を電子化して収録しました。

文字サイズを変更できます。

*1——地図を表示するにはインターネットへの接続が必要です。

*2——別ウィンドウで表示されます。

トップ画面



クリックするとテーマ別年譜が別ウィンドウに表示されます。

バブル崩壊と阪神・淡路大震災、環境意識の高まり、IT技術の浸透、構造改革と規制緩和の波、グローバル化、技術革新、そして東日本大震災……この20年間は、日本の社会、建設業界、そして当社にとって、まさに激動の時代と呼ぶにふさわしいものでした。

20世紀から21世紀へ、既存の価値観がゆらぎ、誰もが新しい目標を模索する中で、大林組はどのようなビジョンを掲げ、どのように歩んだのかを経営の観点からまとめました。

また、「技術」「環境」「ICT」「災害復旧」の4つのテーマについて年譜を付しました。

本文画面



左サイドに章ごとの見出しを表示します。

右サイドの写真をクリックすると拡大表示されます。

文中の緑色の文字をクリックすると解説がポップアップ表示されます。青色の文字をクリックすると関連ページにジャンプします。

工事実績

1991年度から2011年度までの国内外の工事実績から約1,000件の竣工写真・工事概要・所在地の地図を収録。このうち約200件には、工事内容についての解説文を付しました。

絞込画面

この画面は、工事実績の絞り込みを行うためのメインインターフェースです。左側には「地域を選択」のリストがあり、北海道から沖縄まで、さらに海外の国・地域も選択可能です。中央には「年代・用途などを絞り込む」セクションがあり、表示件数（10件、20件、50件）と「全年代」のフィルターがあります。右側には「絞り込み結果」のプレビューが表示されています。

➡まず地域条件を選択します。地域を選択すると絞り込みが開始されます。選択した条件を再クリックすれば、その条件だけがクリアされます。

※最初に「すべての地域」を選択するとデータの読み込みに数分を要します。

絞り込み条件をクリアをクリックすると選択した条件がすべてクリアされます。

絞り込み条件「拡大図」

工事実績

Works

地域を選択

北海道 | 北海道

東北 | 青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島

関東 | 茨城 群馬 栃木 埼玉 千葉 **東京** 神奈川

中部 | 山梨 長野 静岡 岐阜 愛知

北陸 | 新潟 富山 石川 福井

近畿 | 三重 滋賀 京都 大阪 和歌山 奈良 兵庫

中国 | 岡山 広島 鳥取 島根 山口

四国 | 香川 徳島 高知 愛媛

九州 | **福岡** 佐賀 長崎 大分 熊本 宮崎 鹿児島

沖縄 | **沖縄**

北米 | アメリカ

中米 | メキシコ

アジア | インド インドネシア カンボジア シンガポール タイ

バングラデシュ フィリピン ベトナム マレーシア ミャンマー

ラオス 台湾 中国

中東 | アラブ首長国連邦 イスラエル

欧州 | イギリス フランス ベルギー ポスニア・ヘルツェゴビナ

豪州 | オーストラリア

国内外 | すべての地域（表示に数分程度時間を要する場合があります）

年代・用途などを絞り込む

表示件数 **10件** 20件 50件

全年代

解説の有無 両方 **解説付きのみ**

すべての用途 **民間事務所** データセンター 商業・飲食・娯楽施設
ホテル等 生産施設 集合住宅 **官公庁舎** 教育・文化施設 研究施設
医療・福祉施設 放送・通信施設 物流施設 スポーツ・レジャー施設
宗教・歴史的建造物 都市再開発事業 エネルギー関連施設 鉄道施設
道路施設 港湾・空港施設 上下水道施設 河川・防災施設
公園・墓地・土地造成 海洋・湖沼施設 廃棄物処理施設

絞り込み結果「拡大図」

この画面は、絞り込み結果の拡大図です。ここでは「ベネッセコーポレーション東京ビル」(1994年竣工)と「リバーサイド隅田セントラルタワー」(1994年竣工)の2つのプロジェクトがリストアップされています。各プロジェクトには、所在地、発注者、竣工年などの詳細情報が表示されています。また、各プロジェクトの下部には、その建物の写真と、所在地を示す地図が掲載されています。

解説のマークがある工事には詳しい解説を付しました。

地域による絞り込み(複数選択可能)

竣工年による絞り込み

用途による絞り込み(複数選択可能)

工事実績詳細画面

この画面は、特定の工事実績の詳細ページです。ここでは「リバーサイド隅田セントラルタワー」のプロジェクトが中心に紹介されています。左側にはプロジェクトの基本情報（所在地、発注者、竣工年など）がまとめられています。中央には、建物の外観写真と、その周辺の地図が掲載されています。右側には、プロジェクトに関する詳細な説明や、関連するリンクが提供されています。

工事概要、竣工写真、使用されている技術、地図などが表示されます。使用されている技術は、[技術]コンテンツにリンクしています。地図表示にはインターネットへの接続が必要です。

技術

大林組技術研究所の紹介に加え、最先端の技術約180件を紹介。
技術スペシャルとして、東京スカイツリー®を築いた技術、
大井地区トンネルとURUP(ユーラップ)工法も収録しています。

トップ画面

技術

Technologies



技術紹介画面

技術紹介

TECHNOLOGY
DATABASE

179件の技術一覧を表示しています。用途
やニーズを選択することで、必要な技術を
絞り込むことができます。
※右側には主たるニーズのみ表示していま
す。

絞り込み条件をクリア (すべて表示)

■用途を選ぶ

すべて (179) 民間事務所 (110) データセンター (89) 商業・飲食・娯楽施設 (100) ホテル等 (94) 生産施設 (111)
集合住宅 (96) 官公庁舎 (107) 教育・文化施設 (103) 研究施設 (113) 医療・福祉施設 (100) 放送・通信施設 (92)
物流施設 (83) スポーツ・レジャー施設 (92) 宗教・歴史的建造物 (94) 都市再開発事業 (92) エネルギー関連施設 (110)
鉄道施設 (44) 道路施設 (44) 港湾・空港施設 (22) 上下水道施設 (16) 河川・防災施設 (33) 公園・墓地・土地造成 (10)
海洋・湖沼施設 (12) 廃棄物処理施設 (16)

■ニーズを選ぶ

環境をまもる、創る 安全・安心をまもる 良く・速く・安く 資産を活かす その他

上のタブでニーズを選ぶと、更に細分化されたニーズを選ぶことができます。

技術名

αシステム
加速度センサを用いた盛土の締固め管理システム
AML (エーエムエル) 工法
シーとアスファルトコンクリートによる遮水工法
2段タイ材地下施工法
既設岸壁を供用しながら機能強化や耐震補強を図る
A E 法を利用した岩盤に係る測定技術
超音波計測技術を利用した岩盤損傷判定および岩盤物性評価
C S G混合用大容量連続ミキサ「DKP-VI」
コンパクトな機体に大きな製造能力のDKミキサ

主たるニーズ

建設ICT
廃棄物処理
リニューアル/改修・補修
高性能・高品質
(高性能・高品質、長寿命)
短工期

用途による絞り込み

ニーズによる絞り込み

用途やニーズを選択する
ことで、必要な技術を絞
り込むことができます。

個別技術画面

技術紹介 TECHNOLOGY DATABASE

αシステム

加速度センサを用いた盛土の締固め管理システム

αシステムは、振動ローラに加速度センサを取り付けて、盛土の剛性を判定するシステムです。振動ローラの振動軸の
加速度応答が地盤の締固め具合によって変化する現象を利用し、転注時の加速度応答のデータを解析することによっ
て、密度や変形係数をリアルタイムに判定し、盛土の定量的な品質管理を行います。
従来、施工後に実施していた現場計測での点検情報、観測情報による品質管理とは異なり、施工時に密着情報による品質管
理ができます。本技術は、前田建設工業との共同開発技術です。



技術名をクリックすると
個別技術について見るこ
とができます。

資料編画面例

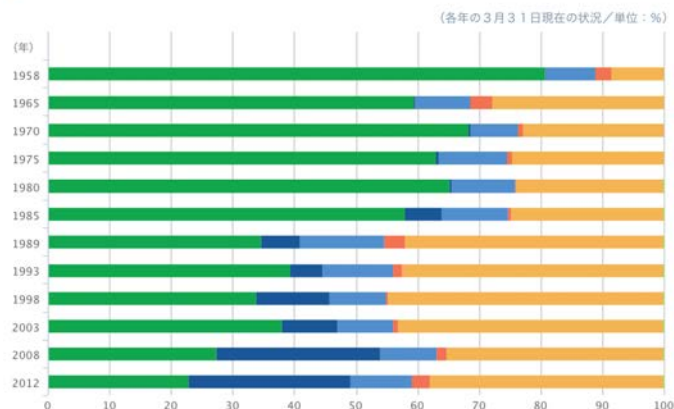
資料編
2 株式

■株式

- 発行済株式数の推移
- 株式の所有者別状況の推移
- 大株主の状況
- 株価の推移

■株式

株式の所有者別状況の推移



『百年史再録』トップ画面



大林組百年史

1993年に刊行された『大林組百年史』を電子化して収録しています(1991年以降の工事と資料編を除く)。
なお、社名・施設名などは、刊行時の表記のままとしていますので、あらかじめご了承ください。

120年史にもどる

発刊の辞

- 1 創業から太平洋戦争終結まで
- 2 戦後の復興から高度経済成長まで
- 3 東京本社設置から創業100年まで

発刊の辞

当社は平成3年(1991)、創業100年を迎えました。明治25年(1892)1月、創業者大林芳五郎が大阪の地で大林組を興し、それから、明治、大正、昭和、平成へと時代を過ぎ1世紀という歳月を刻みました。その100年は、まさに近代国家へと歩み出したわが国の歴史とともにありました。

明治維新後、先進欧米諸国に追いつくため富国強兵・殖産興業が国是とされ、軍事・社会資本の充実が図られ、諸産業が次々と勃興するに伴い、建設業はにわかに活躍の場を得たのでありますが、それは、産業としての起業のチャンスと成長の期待を与えるものでもありました。

芳五郎は、志を立て建設業とは全く無縁の身でこの業界に入り、その生涯をかけて当社の基礎を築きました。時代への先見性、仕事への情熱、強い社会への使命感、「良く、速く」をモットーに進取積極にして誠実な施工に徹する生き方は、多くの人々の信頼を集め、各界に心強い後援者と、内部には柱石となる人材とをもちこたになったのであります。



代表取締役会長 大林芳郎
代表取締役社長 津室隆夫

【使用上の注意】

- ▶本DVD-ROMはDVDドライブのあるPCでご覧下さい。DVDプレーヤーでは再生できません。
- ▶直射日光の当たる場所や高温多湿の場所には保管しないで下さい。ディスクの記録面に汚れや傷がつかないようにお取り扱い下さい。
- ▶本DVD-ROMに収録されたソフトウェア及びコンテンツは著作権法によって保護されています。許可なく複製すること、無断でネットワーク等で配布することは法律により禁じられています。
- ▶収録されているソフトウェア等の使用に伴ういかなる損害に対しても、メーカー及び制作者側は一切保証いたしません。ソフトウェアのご利用は利用者個人の責任において行って下さい。

定款、財務諸表などの基本データです。

1993年に刊行された『大林組百年史』を電子化して収録しています(1991年以降の工事と資料編を除く)。社名、施設名などは、刊行時の表記のままとしていますので、ご了承ください。

1890

1894▶日清戦争勃発

1900

1904▶日露戦争勃発

創業 ▼

創業者大林芳五郎は、1892(明治25)年1月18日、阿部製紙所工場(大阪府西成郡川北村)を初めて落札。落札から7日後の1月25日を創業の日とした。時に芳五郎28歳、店舗を大阪市西区靱南通の住居に置いた。



初代店舗



創業者 大林芳五郎



阿部製紙所工場 1892年竣工

大林組

1892-2011
OBAYASHI
Chronicle



〔上〕大阪築港工事
〔下〕第5回内国勧業博覧会
1903年竣工

大阪で名をはせる ▲

大阪築港工事は、芳五郎が入札によって獲得した最初の大規模工事であった。続いて、1901年11月、第5回内国勧業博覧会の主要施設のほとんどを受注。芳五郎は、この博覧会に自主参加し、望楼を建設。「望遠楼」と名付けられたが、一般には「大林高塔」と呼ばれ、高さ150尺(45m)、木造としては前例がなく、エレベータを備え、入場料は15銭で、人気を集めた。

大林組を名乗る

1904年2月、日露戦争が始まり、芳五郎は、朝鮮半島の兵站輸送のための鉄道工事のうち、京釜線(釜山—京城間)の永同付近の工事を担当。同月、それまでは、大林店あるいは大林芳五郎店と称していた店名を、正式に「大林組」と命名した。



朝鮮半島の鉄道工事

1910

1914▶第一次世界大戦勃発



2代目店舗

2代目店舗 ◯

1905年6月、事業が拡大してきたことから、店舗を大阪市西区靱南通から、商業地域の中心であった大阪市東区北浜に移転した。



大林義雄社長

株式会社大林組設立 ◯

1918年12月、株式会社大林組を設立。
大林義雄が社長就任。

合資会社大林組設立

1909年7月1日、合資会社大林組を設立。

全国に名を知らしめる ▼

1911年、東京中央停車場建設工事を獲得、全国にその名を知らしめた。



東京中央停車場 1914年竣工

1920

1929▶世界恐慌勃発



3代目店舗

3代目店舗を新築 ◯

1919年7月、大阪市東区京橋に煉瓦造、地下1階、地上3階で新築した。



4代目店舗

4代目店舗を新築 ◯

1926年6月、本店社屋を建て替えた。第一次世界大戦後の好況による業容の急速な拡大に伴い、隣地を買収して建て替えたもので、関東大震災の教訓から、鉄筋コンクリート造とし、地下1階、地上6階のスパニッシュ様式建築であった。



大阪ビルヂング 1925年竣工

大阪ビルヂング ◯

1925年、大阪・中之島に竣工した大阪を代表するビルである。「ダイビル」として永く親しまれてきたが、建て替えられることとなり、2013年、「ダイビル本館」として竣工予定である。旧ビルの外壁煉瓦や石材の装飾品などが再利用されるほか、エントランスホールのデザインを復元するなど、旧ビルのイメージ再現が図られている。

1930

1937▶日中戦争始まる



大阪瓦斯ビルディング
1933年竣工

大阪瓦斯ビルディング ▲

1933年、大阪市により建設が進められていた御堂筋のほぼ中央に竣工。当時、大阪で最も近代的で美しいビルと評された。通称「ガスビル」として親しまれ、2003年には登録有形文化財として登録された。

1940

1941▶太平洋戦争勃発

1945▶太平洋戦争終結

1949▶建設業法施行

大林芳郎社長就任 ▼

1943年10月5日、療養中の社長大林義雄が死去し、11月、養嗣子芳郎が社長に就任した。この時、芳郎は応召中のままの社長就任であった。



大林芳郎社長

1950

1950▶朝鮮戦争勃発

1951▶サンフランシスコ講和条約調印

糠平ダム ▼

産業を支える電力は、終戦当時、壊滅状態であったが、1953年、電力5カ年計画が決定された。この時期、当社が施工した主な水力発電所のうち、糠平ダムは、当時国内第5位の規模で、社運を賭したものであった。



糠平ダム 1956年竣工

昭和恐慌と経済統制……●1927年、金融恐慌が起こる。満州事変(1931年)、日中戦争(1937年)と続き、経済統制が始まる。1937年10月には鉄鋼工作物築造許可規則が公布され、不要不急の民間建築物に鉄鋼の使用が禁止された。そして太平洋戦争(1941年)が始まった。●中国大陸、南方占領地における軍用施設、軍需工場の建設は、建設業界に協力が求められ、業界もこれに応えた。国内においても同様に、軍需工場、飛行場などの建設に繁忙であった。当社が施工した主なものは、関東軍司令部庁舎、満州中央銀行などがある。●統制下にあっても、国策的な官民の大型工事は遂行された。主要な施工には、黒部川第2発電所第1工区(小屋平堰堤)、信濃川発電所、東京帝室博物館(現 東京国立博物館)本館、大阪駅本屋などがある。



関東軍司令部庁舎
1934年竣工



黒部川
第2発電所
第1工区
(小屋平堰堤)
1936年竣工



大阪駅本屋 1940年竣工



東京帝室博物館 1937年竣工



満州中央銀行 1938年竣工



信濃川発電所 1941年竣工



浜寺地区進駐軍住宅

1964▶東海道新幹線開業／オリンピック東京大会開催

1970▶日本万国博開催

1978▶新東京国際空港開港

1960

1965▶名神高速道路全線開通

1969▶東名高速道路全線開通

1970

1972▶冬季オリンピック札幌大会開催

1980



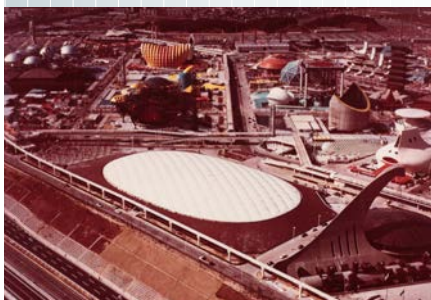
東京大林ビル

東京大林ビルを建設 ▲

1961年9月、東京大林ビルが竣工した。経済活動の東京集中がいよいよ強まり、当社の東日本の拠点として建設したものであった。

東京本社を設置

1970年12月、当社は東京本社を設置。政治、経済、情報等の東京集中に対応したもので、本店とあわせて二者一体の体制とした。



万国博アメリカ館 1970年竣工

万国博アメリカ館 ▲

約1万m²の空気膜構造のドームで、この構造では当時世界最大。設計協力した当社は、設計者とともにアメリカ建築学会賞を受賞。



瀬戸大橋 1988年竣工

瀬戸大橋 ▲

児島一坂出ルートの瀬戸大橋の6つの橋のうち、当社は、南北備讃瀬戸大橋下部工中工区・北工区(Ⅳ)、番の洲高架橋下部工(その6)(Ⅳ)などを担当した。1988年4月、瀬戸大橋は開通し、わが国の橋梁工事の歴史に新たな1ページを加えた。

サンフランシスコ市下水道工事 ▼

1979年8月、当社はサンフランシスコ市下水道工事(N1工区、N2工区)を受注した。わが国の建設業者として初めて米国本土で受注した公共土木工事であった。N2工区には米国で施工例のなかった土圧バランスシールド工法を採用。当社の技術力が高く評価され、米国内の公共土木工事における地歩を固めることとなった。



サンフランシスコ市下水道工事

戦後の苦闘と進駐軍工事……●終戦後、工事量は著しく減少し、激しいインフレと、食料はじめすべての物資が不足する中、当社も厳しい再建の道を歩む。復員者とともに満州大林組など海外からの引揚者が相次ぎ、従業員数は、終戦時の約2000人から1946年中には3000人を超えた。増加した従業員を養うことができず、人員整理が行われたほか、製材所や塩田を経営するなど、生きていくための懸命の努力が続けられた。●進駐軍工事は、工事量の減少の中での特殊な需要で、詳細な仕様書、機械化工法、近代的管理など、朝鮮戦争を契機とする沖縄での米軍基地工事とともに、建設業近代化の手本となった。

1994▶関西国際空港開港

1998▶冬季オリンピック長野大会開催

2003▶東海道新幹線品川駅開業

1990

1995▶阪神・淡路大震災発生

2000



品川インターシティ

東京本社を品川に移転 ◀

1999年1月、当社は、創業100年を機に、東京本社を品川インターシティに移転した。



関西国際空港

関西国際空港 ▶

1994年9月、関西国際空港は、わが国初の24時間運用の国際空港として開港。当社は同空港のメイン施設である旅客ターミナルビルなどを他社と共同で施工したほか、空港島の埋立、造成などの工事を担当。2007年8月、B滑走路が供用開始となった2期工事についても、埋立、造成工事などを担当した。



東京国際フォーラム
ガラス棟 1996年竣工

東京国際フォーラムガラス棟 ▶

国際コンペで選ばれたラファエル・ヴィニオリ氏の設計による東京国際フォーラムのガラス棟。世界でも類を見ない総ガラス張りの光あふれる大アトリウムの大屋根は、全長208mの船底の形で、ジャッキダウン工法で施工した。

丸の内ビルディング ▶

1923年に完成した旧丸ノ内ビルディングは、日本を代表するオフィスビルとして知られた歴史ある建築物である。当社は関東大震災の被害復旧工事を担当。阪神・淡路大震災を契機に建て替えが決定され、低層部に旧ビルのイメージを残しつつ、当社施工により超高層ビルとして生まれ変わった。



丸の内ビルディング
2002年竣工

電通本社ビル ▶

2002年、「汐留シオサイト」の先陣を切って完成した。他に類を見ないプーメラン型の平面形状を持つ超高層ビルで、当社設計により、様々な耐震・制振装置が採用されている。施工段階でゼロエミッション活動に取り組み、2001年度リサイクル推進功労者等表彰(国土交通大臣賞)を受賞。



電通本社ビル 2002年竣工

2005▶中部国際空港開港／愛知万博開幕



オアシス21 2002年竣工

オアシス21 ◯

地下広場の上部にシンボルである大屋根「水の宇宙船」を配した類のない複合施設である。設計提案競技で当社案が最優秀賞となり、当社が施工した。環境へ配慮し、地下広場の自然換気と自然採光の導入、雨水再利用や井戸水の活用、太陽光発電、夜間電力の使用などの省エネルギー手法を採用した。



日本生命丸の内ビル
2004年竣工

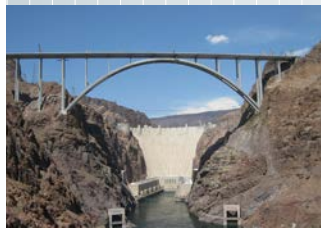
日本生命丸の内ビル ◯

長寿命・フレキシビリティ・環境への配慮をテーマとして、2004年、東京・丸の内に竣工。丸の内地区が培ってきた歴史と景観を継承するため、歴史的な31m(百尺)の高さで高層部を後退させ、駅前広場を囲む他の建物との調和を保っている。

2010

本社を東京に

2010年3月、登記上の本店所在地を大阪から東京に変更することを決定。株主総会の決議後の7月、変更手続きが完了した。これに先立ち、4月に東京本社を、本社と東京本店に再編し、本店を大阪本店に名称変更した。



フーバーダムバイパスプロジェクト
コロラドリバー橋 2010年竣工

フーバーダムバイパスプロジェクト コロラドリバー橋 ◯

2010年、コロラドリバー橋は、フーバーダム(1936年完成)の下流460mに完成した。コロラド川を跨ぐ本橋のアーチ支間323mは、コンクリートアーチ橋として北米最長(世界第4位)の規模である。



ドバイメトロ 2011年竣工

ドバイメトロ ◯

ドバイメトロは、中東では初となる都市交通鉄道である。列車は完全自動の無人運転システムで、総延長は、無人運転として世界最長の約76kmである。

2011▶東日本大震災発生



久御山物流センター

太陽光発電事業を開始 ◯

2012年7月、自社開発の久御山物流センター(京都府久世郡久御山町)において、約1MWの太陽光発電所を建設し、発電事業を開始した。

大林組120年史

2012年11月発行

発行———株式会社大林組(東京都港区港南2-15-2 品川インターシティB棟)

編集———大林組120年史編集委員会
事務局 社史プロジェクト・チーム

制作———大日本印刷株式会社

制作協力———日本科学未来館、株式会社NHKエンタープライズ、山陽映画株式会社

問い合わせ窓口——大林組CSR室広報部 TEL: 03-5769-1014 FAX: 03-5769-1910
<http://www.obayashi.co.jp>